公募シンポジウム
公募シンポジウム5
病棟デバイスの普及に伴うコミュニケーション量の妥当性確保に向けて
2018年11月24日(土) 09:00 ～ 10:30 D会場 (4F 413+414)

[3-D-1-3] 看護業務内容の違いと情報端末の選択に関する研究

○石井 香奈子 （神戸市立神戸アイセンター病院、兵庫県立大学大学院博士課程）

現在、多くの病院で、電子カルテシステムは様々な情報端末で閲覧可能である。一方、看護師の業務はそれぞれの場面、それぞれの個人に適した情報端末が存在し、選択されている。どのような情報端末がどんな業務に適しているのか、選択する看護師による個人差はどこにあるのかを検討し、明らかにしておくことは、看護業務の効率化を検討するために必要であると考えられる。そこで今回、看護場面の違いによる情報端末の選択と看護業務の効率化について検討した。外来・病棟・手術室の看護単位が一元化されている単科病院において、看護師がそれぞれの業務で、好んで選択する情報端末とその理由、選択しない情報端末とその理由について明らかにする。業務に即した情報端末を導入する時、情報端末の操作性だけでなく利用者の視認性の違いも考慮する必要がある。今後、外来を中心として、情報端末の利用者が医療者のみではなく、患者・家族へと拡大しようとしている今こそ、利用者の操作性と視認性に着目した検討が必要であり、導入時に考慮すべき項目の一つに挙げられると考えられる。

©一般社団法人 日本医療情報学会

看護業務内容の違いと情報端末の選択に関する研究

石井香奈子*1、石垣恭子*1、
*1 兵庫県立大学大学院 応用情報科学研究科

Study on difference in contents of nursing work and selection of information terminals.

Kanako Ishii*1 , Kyouko Ishigaki*1
*1 Graduate School of Applied Informatics University of Hyogo

Abstract :

Currently, in many hospitals, the electronic medical record system can be viewed with various information terminals. Nurses have selected information terminals suitable for occupational situations and individuals. Therefore, we will consider the selection of information terminals and the efficiency of nursing work by this difference of nursing scenes.

Introduction of information terminals conforming to business needs to consider not only the operability of the information terminal but also the difference in the visibility of the user. From now on, it is considered that examination focusing on operability and visibility of the user is necessary, now that the user of the information terminal centering on the outpatient is about to expand to not only the medical person but also to the patient and family.

Keywords: Nursing scene differences, Selection of information terminal, Improve nursing service efficiency, Difference in visibili

1. 緒論

1.1. 外来患者と病棟患者の変化

経済産業省の報告によると、団塊の世代が 75 歳を迎える 2025 年まで、外来医療需要は徐々に増加し、病棟医療需要は 2040 年まで増加が持続することが見込まれている[1)]。近年、平均在院日数は各病院の様々な努力により短縮されている。しかしそれは、従来、入院期間中に行われるべき治療前の検査・準備や治療後の処置・指導を短期間の入院中に凝縮して行う、もしくは、外来業務へとシフトしている現状の上に成り立ち、平均在院日数が短縮されればされるほど、外来ではより急性期の患者を受け入れること、治療前後の処置や指導を増加させることになる。病棟では患者の全体像を短期間のうちに把握し、治療や検査に臨むこととなる。それは社会全体が看護に対して高い技術と知識を求めていること、看護ニーズが高くなっていることを示している。

1.2. 看護に期待されるもの

1.2.1. 外来看護師の場合

外来看護師が看護介入をする対象である外来患者は、受診時間の数時間もしくは限られた診療場面にだけ病院に滞在する患者である。そのため、次に介入できるのは次回受診日であり、それは翌日であることもあれば1年後である場合もある。その間、患者にどのような健康状態の変化が予測されるのか、その患者の生活はどのように変化することが考えられるのかを含めてアセスメントし、その患者のその場面における健康状態で、患者と共に生活を再構築することが外来看護師特有の看護のあり方である。特に眼科外来を受診する患者は、人が得る情報の多くを視覚から得ているにも関わらず、見え方が変化することが多く、日常生活に及ぼす影響は大きい、疾患による緩やかな見え方の変化だけではなく、外傷や手術、治療によって急に見え方が変化した状態でも日常生活を送り続ける必要がある。その際にどんなことに注意をする必要があるのか、どんな工夫をすればその「できないこと」を「今まで通りにはできないがなんとかできる」状態にできるのか、それに利用できる社会資源はあるのか、それらを患者とともに考え、実施するのがロービジョンケアである。このように、外来での看護介入は、限られた短時間の病院滞在時間で、その治療を継続するために何が必要か、その症状を持った状態で生活をするために何が不足しているのかを見極めなければならない。外来看護に求められるものは、日々の医療や看護技術の進歩により形を変えてきているものの、看護師の人員配置は「まずは病棟」の考えが依然強く、外来看護師は多くの病院で人員不足の中、患者への看護提供を続けているのが現状である。

1.2.2. 病棟看護師の場合

病棟看護師が看護介入をする対象である病棟患者は、病棟で生活を行う患者である。急性期病院の病棟患者の場合、侵襲性の高い治療や検査の前後であり、近い将来転院・退院という生活環境の変化を目前としている場合もある。病棟生活を送っているため、看護介入は24時間可能であるが、常に何らかの大きな変化を目前にしていること、入院生活中は「健康」についてじっくり考える機会になること等から、不安が出現・増大する時期でもあり、外来看護とは介入方法も違っている。眼科病棟の場合、白内障手術のように入院前と比較して視力改善した状態で退院する場合もあるが、緑内障手術等のように病気の進行を抑制するための治療、随伴して起こる可能性のある別の疾患を抑制するための治療の場合もある。後者の場合、徐々に、もしくは急激に低下する視機能と向き合い、退院後の生活の維持を考えることは大きいな不安と立ち向かうことになる。その患者が抱える不安や思いを受け止め、その不安を抱えながらも治療や検査に臨むためには、または生活の変化を受け入れるために、生活の工夫や社会資源の導入、ICT の利用等、不足した視機能を補い、生活を再構築するために必要なサポートをアセスメントし、患者と共に考え実施する必要がある。

また、社会的な高齢化のため、個別の看護介入を多く必要とする患者も増加している。入院から治療・検査までの期間が短いことから、短期間で的確なアセスメントを実施し、介入するスキルが望まれる。その中で、病棟看護師の業務は入院時、治療・検査の前後、退院時等、説明・指導業務が集中する時期がある。平均在院日数の短縮により、入退院が短期間にで

きることはそれらを含めた看護介入が短縮した入院期間中に凝縮されることとなり、その分業務の過密に繋がる。

1.2.3. 手術室看護師の場合

平均在院日数の短縮は、手術室業務にも変化を及ぼす。手術室看護師が看護介入をする対象である手術対象患者は、侵襲性の高い治療や検査を受ける患者である。手術、もしくは検査を安全に遂行できること、可能な限り不安が少ない状態で手術・検査を受けるために、不足しているものをアセスメントし、介入をすることが手術室看護師の看護介入である。社会的な高齢化は、既往が多く、複雑な既往を持つ患者が手術に臨む機会が増えること、平均在院日数の短縮に伴い、急性期病院に手術・検査が集中し件数が増加すること等から、広く高度な知識と高い集中力が看護スキルとして望まれる。

1.3. 情報端末の普及と情報端末の選択

近年、我が国における情報通信機器の一般的な普及状況は凄まじく、2016 年ではモバイル端末全体及びパソコンの世帯普及率は、それぞれ 94.7%、73.0%となっている[2)]。個人のモバイル端末普及率も徐々に増加しており(83.6%)[2)]誰でも情報端末を身近に使用できる環境になっている。その背景には、人口減少時代において、ICT を有効活用することで、社会の持続的成長を維持することが期待されていることが挙げられる。

電子カルテシステムの普及率は全体で 34.4%(2017 年)[3)]と徐々に増加しており、特に 400 床以上の病院においては 83.1%と高い値を示している。その中で、多くの病院で、デスクトップパソコン、ノートパソコン、タブレット端末等様々な情報端末で閲覧が可能となっている。

2. 本研究の概要

2.1. 研究背景

看護師の業務は外来看護のみならず、病棟、手術室、訪問看護等、様々な場面が存在する。また、看護師が利用可能な情報端末として、デスクトップパソコン、ノートパソコン、タブレット端末等様々な情報端末が準備されており、看護師の好み等により、選択して使用している。どの情報端末が、どんな業務に適しているのか、選択する看護師による個人差はどこにあるのかを検討された研究はなかった。そこで、本研究により、質問紙調査を実施し、電子カルテ閲覧用情報端末の選択要因を明確にすることで、これからの展開を考察し、シンポジウムにおいて発表する予定である。以下、本研究の概要を示す。

2.2. 研究目的

看護業務場面の違いによる情報端末の選択と看護業務の効率化について検討する。

2.3. 研究方法

2.3.1. 調査対象病院と対象者

デスクトップ端末、ノートパソコン、タブレット端末が利用可能な A 病院に勤務する看護師(管理職を除く)を対象とする。A 病院は外来・病棟・手術室で看護単位が一元化されていることで、一人一人の看護師が様々な看護場面を経験しており、本研究の対象者として適していると考えられる。調査対象人数は最大 25 名を予定とする。

2.3.2. 質問紙調査の内容

本研究のために作成した質問紙を用い、外来・病棟・手術室において、メンバー・リーダーそれぞれの業務の時、どの情報端末を好んで選択するか、その理由と、他の情報端末を選択しない理由を明らかにする。

2.3.3. データ収集方法

回答後の調査用紙は、ナースステーション内に回収用封筒を設置し、回収する。

2.3.4. 研究期間

兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科倫理委員会の承認を得た後から平成 30 年 11 月 25 日までとする。

2.4. 倫理的配慮

兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科倫理委員会の承認を得た後、A 病院看護部門長、看護師長への研究説明を実施の上、調査実施の承認を得る。

質問紙調査の実施に向けて、調査への協力は自由意志によるものとし、調査研究に対して研究目的・方法・結果の処理等について説明文書を用いて説明する。質問し調査への協力については調査用紙に記入、提出していただくことで了承を得る旨を説明する。調査への協力の有無による不利益を被ることがないこと、調査結果は研究の目的以外には使用しないことを文書で説明する。

調査は無記名とし、個人が特定されないよう配慮する。また、データの管理は暗号化、数値化等の方法をとることで、個人が特定されないように十分に配慮する。データの保管と利用は鍵のかかる部屋でパスワード認証された PC で行い、解析終了後のデータは暗号化して保管する。調査用紙はデータ入力・分析終了後、シュレッダーを用いて廃棄し、情報の流出を防止する。

3. まとめ

情報端末の普及と多様化は、生活の変化につながり、社会成長の促進に繋がっている。医療における情報端末の普及と多様化は、医療者の働き方を変化させるところまで既にきている。今後、外来を中心として、情報端末の利用者が医療者のみではなく、患者・家族へと拡大しようとしている今こそ、情報端末の操作性だけではなく利用者の視認性の違いにも着目した検討が必要であり、導入時に考慮すべき項目の一つに挙げられると考えられる。

4. 参考文献

1) 将来の地域医療における保険者と企業のあり方に関する研究会. 報告書. 経済産業省経済産業政策局産業構造課, 2015.[http://www.meti.go.jp/press/2014/03/20150318001/20150318001e.pdf (cited 2018-Sep-14)).
2) 平成 30 年版情報通信白書. 総務省統計課, [http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/pdf/30honpen.pdf (cited 2018-Sep-14)].
3) 導入調査結果(導入数推移、導入率推移、伸張率推移). 保健医療福祉情報システム工業会, [https://www.jahis.jp/action/id=57?contents_type=23(2018-Sep-14)]